

Regular | 270pt

光

Light | 23pt

TP明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は金属活字の淡い輝きを内包しつつ

Heavy | 60pt

光の記憶

Bold | 35pt

TP明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です

Medium | 8pt

TP明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上げさせた、原初の光のよう。

Heavy | 14pt (詰めあり)

TP明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さま

Regular | 70pt, 12pt (詰めあり)

TP明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、

Extra Light | 45pt

光の記憶
漂わせた
明朝体

Light | 14pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です

Medium | 30pt

光の記憶を漂わせた

Regular | 280pt



Regular | 11pt (詰めあり)

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。

Extra Light | 6pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい。誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上がらせた、原初の光のよう。

TP 明朝は、文字の並びと流れを重視し、横組み適性の高さを目指しました。さらに、従来のウエイトに加え、コントラストという変化軸を盛り込み、微細な濃度調整も可能になりました。

印刷物やweb サイトはもちろん、携帯電話やタブレット型端末など、小型のディスプレイでの表示にも対応。情報空間を有効に活用したい場合にも

Light | 8pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上がらせた、原初の光のよう。

TP 明朝は、文字の並びと流れを重視し、横組み適性の高さを目指しました。さらに、従来のウエイトに加え、コントラストという変化軸を盛り込み、微細な濃度調整も可能になりました。

印刷物やweb サイトはもちろん、携帯電話やタブレット型端末など、小型のディスプレイでの表示にも対応。情報空

Bold | 31pt

光の記憶を漂わ

Medium | 9pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい。誕生の背後にあるのは、

Heavy | 20pt (詰めあり)

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに

Light | 26pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。

Regular | 5pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上がらせた、原初の光のよう。

TP 明朝は、文字の並びと流れを重視し、横組み適性の高さを目指しました。さらに、従来のウエイトに加え、コントラストという変化軸を盛り込み、微細な濃度調整も可能になりました。

印刷物やweb サイトはもちろん、携帯電話やタブレット型端末など、小型のディスプレイでの表示にも対応。情報空間を有効に活用したい場合にも最適です。

テクノロジーの進化がデジタルフォントの未来を切りひらき、ことばに新たな輝きをもたらす——。光の記憶を漂わせたタイプフェイスは、世界の“いま”と“これから”を照らし出す、次世代のためのインターフェイスです。

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上がらせた、原初の光のよう。

TP 明朝は、文字の並びと流れを重視し、横組み適性の高さを目指しました。さらに、従来のウエイトに加え、コントラストという変化軸を盛り込み、微細な濃度調整も可能になりました。

印刷物やweb サイトはもちろん、携帯電話やタブレット型端末など、小型のディスプレイでの表示にも対応。情

報空間を有効に活用したい場合にも最適です。

テクノロジーの進化がデジタルフォントの未来を切りひらき、ことばに新たな輝きをもたらす——。光の記憶を漂わせたタイプフェイスは、世界の“いま”と“これから”を照らし出す、次世代のためのインターフェイスです。

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上がらせた、原初の光のよう。

TP 明朝は、文字の並びと流れを重視し、横組み適性の高さを目指しました。さらに、従来のウエイトに加え、コントラストという変化軸を盛り込み、微細な濃度調整も可能になりました。

印刷物やweb サイトはもちろん、携帯電話やタブレット型端末など、小型のディスプレイでの表示にも対応。情報空間を有効に活用したい場合にも最適です。

テクノロジーの進化がデジタルフォントの未来を切りひらき、ことばに新たな輝きをもたらす——。

Medium | 42pt

光の記憶を漂わせた明朝体です

Light | 14pt (詰めあり)

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

Bold | 12pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。

Extra Light | 7pt (詰めあり)

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい——。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。

Heavy | 21pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。

Medium | 8pt

TP 明朝は、光の記憶を漂わせた明朝体です。その特徴は、金属活字の淡い輝きを内包しつつ、デジタルフォントならではの、くっきりとした造形性と、あたたかみのあるたたずまい。

誕生の背後にあるのは、四季の移ろいに応じて、さまざまに変化する陽射しと、連綿と続く書体の歴史をしっかりと受け継いでいるという自負。そして、漢字、ひらがな、カタカナ、

欧文など、多種多様な文字で綴られる、ハイブリッドな言語環境。それはまるで、世界の全体像をくまなく浮かび上がらせた、原初の光のよう。TP 明朝は、文字の並びと流れを重視し、

横組み適性の高さを目指しました。さらに、従来のウエイトに加え、コントラストという変化軸を盛り込み、微細な濃度

Regular | 265pt